

第3期酒田市地域福祉活動計画 中間評価について（報告）

平成30年度は、平成28年度から平成32年度までの5年間の地域福祉活動について計画した第3期地域福祉活動計画（以下、「活動計画」と記載します。）の計画期間の中間年にあたることから、その計画内容について事業評価（＝中間評価）を行い、必要に応じた見直しを検討することとしています。

1 中間評価の方法

中間評価は、第2期活動計画の総括に倣って、24の具体的取組みとその実施項目（74項目、再掲を含む）毎に実施状況等を確認し、次の通り、酒田市社会福祉協議会（以下、「市社協」と記載します。）事務局において4段階の自己評価を行いました。

平成28年度から平成30年度（予定を含む）までに市社協が行った事業や取組が、

A：達成

具体的取組みを進めるため事業等を実施し、目標をほぼ達成している

B：概ね達成

具体的取組みを進めるための事業等を実施した、または、実施したものの、まだ充分でなく、目標を概ね達成しているが、課題を残している

C：一部達成

具体的取組みを進めるための事業等を実施した、または、実施したものの、不十分であり、目標を一部しか達成していない
または、検討段階等であり、課題の解決に至っていない

D：未着手

中間評価時点では、検討や着手に至っていない

2 各実施項目毎の中間評価

市社協事務局において実施状況等について、その「これまでに実施した取組」や「課題」の確認とその検討を行い、自己評価を行った結果は別紙「中間評価表」のとおりです。

3 中間評価の結果（まとめ）

評価結果は以下のとおりです。

A：達成	74項目のうち、45項目で	60.8%
B：概ね達成	74項目のうち、11項目で	14.9%
C：一部達成	74項目のうち、15項目で	20.2%
D：未着手	74項目のうち、3項目で	4.1%

計画中、現時点において項目の概ね6割を実施（「達成」）しました。これは、市社協のみならず、学区・地区社協をはじめとする地域の方々を中心に、関係機関・団体などとの協働の結果によるものと理解しております。

なお、「概ね達成」、「一部達成」、「未着手」の項目については、本計画残期間をもって、引き続き、検討・事業実施してまいります。

4 中間評価の公表・報告と意見聴取

本評価はあくまで市社協による自己評価ですが、この結果について、市社協ホームページ等で広く公表するとともに、学区・地区社協代表者会議などを通じて地域及び地域住民の皆様への報告を行います。

それに合わせ、本評価への意見等を聴取することとしており、そこで頂いた意見等については、計画期間中の市社協事業計画（平成31年度、平成32年度）に反映するとともに、市社協の事業実施の参考とします。

また、これらについて、別途定める「活動計画の中間見直し」の公表・報告と合わせて行い、中間見直しについても同様に意見等を聴取します。

「年号表記について」

平成31年5月に元号の変更（改元）が予定されていますが本計画の中間評価時点では新年号が決まっていないため、標記の連続性および分かり易さの観点から、和暦で表記する箇所については平成の表記としました。

なお、西暦との対応関係は以下の通りです。

平成30年度（2018年度） 平成31年度（2019年度） 平成32年度（2020年度）

第3期酒田市地域福祉活動計画 中間評価表

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実 施 状 況 等	評価
1 新・草の根事業の包括的見直し	①新・草の根事業の包括的見直しの実施	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成28年度に市の地域福祉事業の実態把握のため、市健康課、子育て支援課、介護保険課との勉強会を行った。 ○平成29年度に全学区・地区でヒアリング会を開催、事業の実施状況や地域ごとの課題を確認した。 <hr/> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見守りネットワーク支援事業について、災害時要援護者台帳、避難行動要支援者名簿との統合等を含めた市福祉課との協議を始めているが、統合等に至っていない。 ○事業の実施状況や地域ごとの課題の確認の結果、地域ごとの実施状況や考え方、見直しに対する意向に差があり、これまでの統一的な事業実施は困難であると考えているが、見直し案の提示に至っていない。 	C
	②新・草の根事業の周知	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自治会長研修や合同会議、学区・地区社協総会等の場で説明を実施した。 ○新自治会長研修会では、事業説明に加え、見守りネットワーク支援事業での自治会長の役割についての説明を行なった。 ○会報ふれあい等を通して広く事業内容を紹介した。 <hr/> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業そのものが関わりのない方から見えにくいため、多くの住民に理解いただける事業の工夫が必要と考えられるが、検討に至っていない。 	B

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
2 福祉協力員のあり方の検討	①福祉協力員研修の充実	<p>【これまでに実施した取組】</p> <p>○平成29年度に実施した研修会では、講義による全体研修を改め、特に新任福祉協力員を対象にグループワーク等を通じた、より実践的な研修へ改善した。</p>	A
	②福祉協力員と福祉隣組の役割明確化、見直し	<p>【これまでに実施した取組】</p> <p>○平成29年度に全学区・地区でヒアリング会を開催、事業の実施状況や地域ごとの課題を確認した。</p> <p>○他市の福祉協力員視察受入を通じて、情報交換を行った。</p> <hr/> <p>【課題】</p> <p>○事業の実施状況や地域ごとの課題の確認の結果、地域ごとでの役割の違い等が明らかになっており、新・草の根事業の包括的見直しと合わせて、役割やあり方について見直し案を検討している。</p>	B
	③個人情報対応に関するルール、対応策検討	<p>【これまでに実施した取組】</p> <p>○平成28年度に「地域福祉活動と個人情報保護法について」の研修会を開催した。</p> <p>○平成29年5月の改正個人情報保護法に対応し、見守られる本人から関係機関・団体での情報の共有等について同意・捺印を頂く書式に見守りネットワーク支援事業の台帳を修正し、学区・地区社協研修会等で周知した。</p> <hr/> <p>【課題】</p> <p>○情報の共有等について同意を頂けない方への対応と見守り方法、これまでの登録者からの同意の取り付け方法等についての協議・検討に至っていない。</p>	B

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
<p>3 地域での「新たな支え合い活動」の取組推進</p>	<p>①地域での新たな支え合いの仕組みづくり支援</p>	<p>【これまでに実施した取組】 ○琢成、日向、南遊佐の地域支え合い活動への支援や介護予防・日常生活支援総合事業の移行支援等を継続している。 ○平成28年度には亀ヶ崎、平成29年度には松陵での地域支え合い研修会の開催とその支援を行った。</p> <hr/> <p>【課題】 ○介護予防・日常生活支援総合事業の開始以降、市介護保険課や生活支援コーディネーターが中心となって地域住民を主体とした総合事業B型の仕組みづくりが始まり、その目的や地域への働きかけ、補助支援等は地域支え合い活動と類似・重複する部分があるが協働に向けた調整が図られていない。 ○これまでの支援を通して、学区・地区単位での地域支え合いの仕組みづくりは、圏域が大きく、合意形成や具体的取組の実施が難しい場面もあったことから、今後の支援方法についての改善が必要と考えられるが、検討に至っていない。</p>	<p>C</p>
	<p>②地域の既存機関・団体との地域の協働検討</p>	<p>【これまでに実施した取組】 ○社会福祉法人の「地域における公益的取組」の支援として市内社会福祉法人に呼び掛け連絡会議を開催した。</p> <hr/> <p>【課題】 ○社会福祉法人以外の民間事業者や地域のNPO、ボランティア団体など幅広い機関・団体への積極的な働きかけ等について検討に至っていない。</p>	<p>C</p>

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
4 介護保険法改正への積極的対応	①介護予防・日常生活支援総合事業の移行対応	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市の協議会(第1層)へ参画している。 ○地域包括支援センターにいだでは第2層コーディネーターが中心となり「歩いて通える居場所づくり」の立ち上げ支援を行った。平成28年度に3か所、29年度に8か所を立ち上げ、平成30年度は計11か所が継続している。また、サロン開催団体へ働きかけ、総合事業移行への検討会議を行った。 ○地域の求め等に応じて、市や包括支援センターと協働し、コミュニティ振興会や学区・地区社協等への事業及び制度の説明を行った。 	A
	②既存地域活動、既存予防介護の移行実施	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○琢成学区等で地域支え合い活動から総合事業への移行のための会議等に参画するなど支援を行った。 	A

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
5 認知症関連施策への積極的関与	①認知症理解を深めるための普及・啓発の推進	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域包括支援センターにいだでは、認知症の啓発事業として認知症サポーター養成講座を開催した。 ○地域包括支援センターにいだでは、地域ケア会議等において、認知症状の理解推進、認知症の方の孤立予防等の啓発講座等を実施した。 	A
	②市認知症高齢者あんしんネット事業への協力	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市事業「安心おかえり登録」への協力、「さかた声かけ隊」の普及への協力を行った。 ○地域包括支援センターにいだでは地域ケア会議等において、「安心おかえり登録」登録者の情報を共有し、地域での見守りの強化を支援した。 <hr/> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社協内で「安心おかえり登録」登録者リストを共有しているが、徘徊発生など有事の際の具体的な対応について検討されていない。 	B
	③地域でのサポーター養成講座自主開催の支援	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福祉サービス利用援助事業の生活支援員に対する研修としての認知症サポーター養成講座を実施した。 ○地域包括支援センターにいだにおいて圏域内の自治会に働きかけ、認知症サポーター養成講座を実施している。 	A
	④関係機関・団体への事業・制度説明会の実施	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福祉サービス利用援助事業の関係機関・団体等への説明を実施した。 	A

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
6 市社会福祉協議会ならではの介護サービス事業の展開	①介護サービス部門と地域福祉部門の連携強化	<p>【これまでに実施した取組】 ○個別ケースにおいて、地域担当の他、生活自立支援センターさかたや福祉サービス利用援助事業、成年後見担当と介護サービス部門との連携を継続している。</p> <p>【課題】 ○課題共有の仕組み作りの検討や実施には至っていない。</p>	C
	②新たな制度外サービスの事業実施	<p>【これまでに実施した取組】 ○困窮者に対するフードバンク事業、車いすの日和山公園桜まつりでの貸し出し、買い物支援等を目的とした「満腹市にいた」の開催などに取り組んだ。 ○在宅サービス利用者より介護ニーズを把握し、高齢者や障がい者に対する簡易なサービスについて、社会資源リストを作成した。</p> <p>【課題】 ○他地域で行われている生活支援事業の取り組みの調査や有償による介護サービス提供の検討等を行ったが、現在行っている保険外サービス以外の新たな取組みの実施は至っていない。</p>	B
	③通所介護事業（いずみ、松山）の充実	<p>【これまでに実施した取組】 ○介護予防・日常生活支援総合事業の開始に合わせ、通所A型事業の実施を開始し、運動、趣味活動、外出支援などを提供している。 ○介護度が重度の方の受け入れを積極的に行い、利用者本人への支援とともに介護者の介護負担軽減を図っている。</p>	A
	④介護事業経営について中長期計画の策定	<p>【これまでに実施した取組】 ○デイいずみでは災害時に備えた事業継続計画(BCP)の作成を計画するなど継続経営のための整備を行った。</p> <p>【課題】 ○中長期計画の策定の検討や策定には至っていない。</p>	C

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
<p>7 市社会福祉協議会ならではの制度外サービスの展開</p>	<p>①新たな制度外サービスの事業実施[再掲]</p>	<p>【これまでに実施した取組】 ○困窮者に対するフードバンク事業、車いすの日和山公園桜まつりでの貸し出し、買い物支援等を目的とした「満腹市にいだ」の開催などに取り組んだ。 ○在宅サービス利用者より介護ニーズを把握し、高齢者や障がい者に対する簡易なサービスについて、社会資源リストを作成した。</p> <hr/> <p>【課題】 ○他地域で行われている生活支援事業の取り組みの調査や有償による介護サービス提供の検討等を行ったが、現在行っている保険外サービス以外の新たな取組みの実施は至っていない。</p>	<p>B</p>
	<p>②制度外サービスに対応する社会資源リスト化</p>	<p>【これまでに実施した取組】 ○在宅サービス利用者より介護ニーズを把握し、高齢者や障がい者に対する簡易なサービスについて、社会資源リストを作成した。</p>	<p>A</p>

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
8 市社会福祉協議会ならではの障がい者支援	①制度横断的な総合相談の対応	<p>【これまでに実施した取組】</p> <p>○ひきこもり支援など個別ケースにおいて、地域担当の他、生活自立支援センターさかたや福祉サービス利用援助事業・成年後見担当と特定相談支援事業担当との連携を継続している。</p>	A
	②市内の事業者、関係機関・団体との連携強化	<p>【これまでに実施した取組】</p> <p>○市自立支援協議会や生活自立支援センターさかた支援調整会議へ参加し、他機関・団体との連携を図っている。</p> <p>○県内外の事業者と連携を図り、同行援護支援調整や企業のトライアル雇用への橋渡しに取り組んだ。</p> <p>○「満腹市にいだ」「松山いきいきクラブ」「社協表彰式」等で、就労支援の一環として弁当や菓子販売の出店を障害サービス事業所を依頼し、参加協力に至った。</p>	A
	③障がい者が地域活動に参加できる取組検討	<p>【これまでに実施した取組】</p> <p>○手話奉仕員育成事業の受託を継続するとともに、平成30年度より新たに市障がい者アート作品展の事業を受託するなど地域参加促進のための取組を支援している。</p> <p>○平成28年度より施行された障害者差別解消法について会報ふれあいでその内容を掲載するとともに、学区・地区の合同会議での説明を行った。</p> <p>○視覚障がい者の方が地域活動へ参加促進のため、資格保有者による同行援護の支援を行っている。</p> <p>○「満腹市にいだ」「松山いきいきクラブ」「社協表彰式」等で、就労支援の一環として弁当や菓子販売の出店を障害サービス事業所を依頼し、参加協力に至った。</p>	A

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
9 市社会福祉協議会ならではの子育て支援	①地域主体による子育て支援の実施	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地域子育て応援団」や保育所・学童保育所での地域との交流事業等を共同募金助成として支援を継続している。 ○子ども食堂等を実施する団体の相談、情報提供、食品衛生法上の許可の必要性などの行政照会など運営の支援や協力を行っている。 	A
	②子育て支援団体・機関との連携と協働の実施	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新・草の根事業の包括的な見直しや保育所等児童関係施設を運営する社会福祉法人の「地域における公益的な取組」での協働も含め、地域と連携した子育て支援ができるよう関係機関・団体と検討を行う必要があるが、検討や実施には至っていない。 	D
	③共同募金助成による子育て支援の継続	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地域子育て応援団」や保育所・学童保育所での地域との交流事業等を共同募金助成として支援している。 ○既存事業先の事業内容の拡充や転換、未助成先への働きかけや助成紹介などを継続して実施した。 	A

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
10 地域福祉活動の担い手確保の促進	①福祉活動参加促進のための仕組みづくり	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若年層をターゲットとした夏のボランティア体験事業を毎年、継続実施し、参加団体・参加人数は増加傾向にある。 ○福祉の担い手育成事業(高齢者疑似体験事業)や元気シニアボランティア事業などを市より受託し、これらの拡充や改善を図っている。 ○車いすの日和山公園桜まつりでの貸し出し、市障がい者アート作品展、戸沢村災害VCへのボランティア派遣などの実施にあたり、広く市民ボランティアを募集し、参加機会を創出した。 ○ボランティア交流会の拡充や退職した方の地域デビューを促す「お父さんおかえりなさいパーティー(仮)」等の実施を検討している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「お父さんおかえりなさいパーティー(仮)」等の具体的実施に至っていない。 	B
	②福祉版出前講座、体験講座などの機会づくり	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福祉版出前講座の開発に向け、講座メニューなどを検討している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福祉版出前講座の具体的実施に至っていない。 	C
	③サロンや給食等リーダー研修、養成の実施	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい給食調理ボランティア向けの管理栄養士及び保健所による講習会を継続して開催している。 ○平成28年度までは、サロン世話人(リーダー)研修会を継続して開催した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市が実施する介護予防担い手養成講座など、類似の研修・養成事業が実施されており、社協実施・支援事業との整理が必要となっている。 	B

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
11 地域での福祉教育の実施	①地域、保護者、学校等協働による福祉教育実施	<p>【これまでに実施した取組】 ○福祉の担い手育成事業(高齢者疑似体験事業)を市より継続して受託し、学校等と連携、また、地域のボランティアスタッフの協力を得て実施している。 ○夏のボランティア体験では平成27年度からメニュー追加した福祉教育等を目的とした障がい理解や地域文化伝承等の「学習会」を継続している。</p> <hr/> <p>【課題】 ○地域、学校等との協働による福祉教育の実施に向けた協議に至っていない。</p>	B
	②既存の福祉教育活動への参画、支援	<p>【これまでに実施した取組】 ○松原学区の作文コンクールなど共同募金助成を通して地域での福祉教育活動を支援している。</p>	A
	③福祉・ボランティア体験講座の充実	<p>【これまでに実施した取組】 ○夏のボランティア体験では、福祉施設での活動等を引き続き実施、また、平成27年度からメニュー追加した福祉教育等を目的とした障がい理解や地域文化伝承等の「学習会」を継続している。 ○福祉の担い手育成事業(高齢者疑似体験事業)や元気シニアボランティア事業などを市より受託し、これらの拡充や改善を図っている。</p>	A

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
12 自治会・コミュニティ振興会組織との連携強化	①自治会、コミ振への事業の周知と説明	<p>【これまでに実施した取組】</p> <p>○自治会長研修や合同会議等の場で社協の各種事業などの説明を実施した。</p>	A
	②学区・地区社協組織のあり方検討	<p>【これまでに実施した取組】</p> <p>○全地区でヒアリング会を開催、事業の実施状況や地域ごとの課題を確認した。</p> <hr/> <p>【課題】</p> <p>○新・草の根事業の包括的見直しと合わせて、組織のあり方や支援方法を検討している。</p>	C

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
13 多様な主体との連携の推進	①生活支援サービス提供のための体制づくり	【これまでに実施した取組】 ○琢成学区等で地域支え合い活動から総合事業への移行のための会議等に参画するなど支援を行った。	A
	②他分野団体との連携と協働の実施	【これまでに実施した取組】 ○生活自立支援センターさかたでは金融機関、司法行政、労働関係機関などとの連携を進め、個別ケースへの対応を行っている。	A
	③市関係課との連携強化	【これまでに実施した取組】 ○市関係課とは随時・定期的な情報交換などを行っており、連携強化を図っている。	A

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
14 社会福祉法人等への地域公益活動参加の働きかけ	①社会福祉法人協働による地域公益活動の実施	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成30年度、社会福祉法人の「地域における公益的取組」の支援として市内社会福祉法人に呼び掛け連絡会議を開催した。 ○平成30年度、市内社会福祉法人が既に実施する「地域における公益的取組」を事例集としてまとめ、地域等に向け発行した。 <hr/> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○協働による取組の実施には至っていない。 	B
	②大学、専門学校、高校への活動参画の働きかけ	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成28年度に開催した取組アイデア検討会には学校法人(認定こども園)や社会福祉法人以外の福祉事業者の参加を得た。 <hr/> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学、専門学校、高校への活動参画の働きかけには至っていない。 	

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
15 ボランティアセンター、市公益活動支援センターの活動推進	①ボランティア・市民活動への参加促進	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成30年度よりボランティアセンターと市公益活動支援センターを統合し、一体的な運営を行い、更なるボランティア・市民活動の振興を図っている。 ○福祉の担い手育成事業(高齢者疑似体験事業)や元気シニアボランティア事業などを市より受託し、これらの拡充や改善を図っている。 ○NPO法人、ボランティア・市民活動団体などを対象とした助成金に関する研修会を開催し、活動の拡充や改善を支援している。 	A
	②両センター周知による利用促進と情報発信	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成30年度よりボランティアセンターと市公益活動支援センターを統合し、一体的な運営を行い、更なるボランティア・市民活動の振興を図っている。 ○ボランティア・公益活動センターだよりやホームページ、メール配信、SNS利用など情報発信を継続して行い、情報提供とセンターの利用促進につなげている。 	A
	③両センターの事業運営方法の改善と拡充	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成30年度よりボランティアセンターと市公益活動支援センターを統合し、一体的な運営を行い、更なるボランティア・市民活動の振興を図っている。 ○東北公益文科大学や同大学地域共創センターとの連携を強化し、平成30年度からは「地域共創コーディネーター」養成研修と一体的に企画された「ボランティアコーディネーションカ3級検定」研修を開催するなど、共に人材育成に努めている。 <hr/> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア・市民活動団体の活動に役立つ設備・機器の貸出、活動拠点の創設、相談体制の強化などの更なる支援充実について検討が必要である。 	B

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
16 災害ボランティアセンターの体制整備	①災害VCの周知	<p>【これまでに実施した取組】</p> <p>○自主防災協議会や酒田青年会議所など関係団体主催会議やイベントへの参加を通して周知を図っている。</p>	A
	②災害VC設置・運営訓練の実施と資機材の整備	<p>【これまでに実施した取組】</p> <p>○市社協防災訓練での災害VC設置訓練や市防災訓練への参加、酒田青年会議所の研修会への参加などを行っている。</p> <hr/> <p>【課題】</p> <p>○災害VC運営にあたっては、社協のみならず地域住民ボランティアなど様々な主体の参加が不可欠だが、その理解浸透には至っていない。</p>	C
	③人材育成のための研修会への参加及び開催	<p>【これまでに実施した取組】</p> <p>○平成28年度には県防災士会の方々、平成29年度には県危機管理アドバイザー、平成30年度には鶴岡高専教諭を講師を迎え、防災に係る研修会を開催した。</p> <p>○青年会議所が主催する防災体験フェスティバルに参加し、連携強化を図っている。</p>	A
	④災害時の協力体制づくり(ネットワーク)	<p>【これまでに実施した取組】</p> <p>○自主防災協議会や酒田青年会議所など関係団体主催会議やイベントへの参加や事業への参加を通して連携強化を図っている。</p> <p>○平成30年度、山形県社会福祉協議会の協定に基づき戸沢村災害ボランティアセンターの運営に取り組み、他市町村社協とのネットワークを広げた。</p>	A
	⑤マニュアルの見直しと整備	<p>【これまでに実施した取組】</p> <p>○平成28年度、東日本大震災被災地VCへの派遣や他県マニュアル、研修会を踏まえ、様式を整備するなど実践的マニュアルに改訂した。</p> <hr/> <p>【課題】</p> <p>○平成30年度の戸沢村災害VCへの職員派遣の経験等を踏まえ、さらに現実的なマニュアルへの見直しが必要と考えているが、改訂には至っていない。</p>	C

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
17 本市への避難者支援及び被災地支援の継続	①避難者の課題把握と支援、情報提供の継続	【これまでに実施した取組】 ○避難者支援相談員を中心に、引き続き避難者世帯の訪問、交流の場づくり、情報紙の発行、各種相談などを実施した。	A
	②避難者支援のための関係機関・団体との連携	【これまでに実施した取組】 ○県の調整会議に参加し、県内外の各種機関・団体と連携するとともに、市での調整会議を主催し市関係課との連携強化を図っている。	A
	③被災地活動を希望する個人、団体への協力	【これまでに実施した取組】 ○被災地活動を行っている「酒田ボラバスネットワーク」への支援活動として、福祉バスの提供などを継続して実施している。 ○平成30年度の戸沢村災害VCの設置を受け、市と被災地をつなぐボランティアバスの運行を企画・実施した。	A

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
18 生活困窮者自立支援事業の拡充	① 自立相談支援事業の受託継続	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成27年度よりの「生活自立支援センターさかた」開設以来、自立相談や就労支援を継続して実施している。 ○行政、関係機関と定期的に支援調整会議を開催し、支援連携を強化している。 ○緊急性を要するケース、世帯全体で検討を必要とするケース等が増えていることから、関係者の出席により個別支援調整会議を開催している。 ○生活福祉資金・たすけあい資金による貸付支援、フードバンクを活用した食料支援などを実施し、緊急的な支援等に対応している。 	A
	② 家計相談支援など任意事業実施の検討	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「就労準備支援事業」を実施する多機能こもれび等関係機関と協調して就労支援を実施している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家計相談は自立相談の範囲で実施しているが、制度上の任意事業（「家計改善支援事業」）としての実施には至っていない。 ○平成30年10月施行の改正生活困窮者自立支援法では自立相談支援・就労準備支援・家計改善支援の一体的実施の促進が求められており、この体制づくり等について市や関係機関・団体との調整が必要と考えられるが、協議に至っていない。 	C
	③ 困窮者早期発見や見守り等地域での取組実施	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単位民協、学区・地区社協などでの制度説明・周知を実施し、困窮者の早期発見につなげている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個別ケースにおいて民生・児童委員との協力や連携を行っているが、取組の実施には至っていない。 	C

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
19 新たな地域課題への対応	① 自殺予防対策事業への協力と連携	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市健康課が実施する「こころの健康相談」「こころのサポーター養成講座」等の周知や会場手配等に協力をしている。 ○県主催の「庄内自殺対策意見交換会」へ出席し、庄内地域の市町の取組や支援団体の活動等について情報交換、共有を行った。 	A
	② 悪質商法等の啓発と被害防止活動への協力	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○警察や消費生活センターが開催する悪質商法に関する研修会の周知や情報提供に協力している。 	A
	③ ニート、ひきこもり者に対する支援等の実施	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成29年度よりひきこもり本人とその家族を対象とする相談窓口を開設し、継続実施している。 ○ひきこもり回復支援のための市民団体「春風の会」に協力し、各種団体や行政との連携やネットワークづくりについて協議、検討している。 ○自立に向けた出口支援、社会との接点を持つことができる居場所の提供として平成30年度に「折り紙 脳トレ教室」を開催した。 	A
	④ 更生保護への福祉的支援の取組検討、協力	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成29年度より「社会を明るくする運動」酒田市推進委員会メンバーとなり、運動に協力するとともに、更生保護関係機関・団体との連携を強化している。 ○生活自立支援センターさかたでは検察や県地域生活定着支援センター等と連携、協力し、出所者等刑余者の自立支援を行い、必要に応じ、地域での見守り等への協力を行っている。 	A
	⑤ その他新しい地域課題対応の検討、協力	<p>【これまでに実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個別のケースにおけるゴミ・ネコ屋敷の対応には市や関係機関、地域住民と協議・調整し、それぞれで解決に向けた取組を行った。 ○空き家問題では居場所づくりの助成申請の支援をするなど、資金面や手続き面での空き家を活用したサロンや居場所づくりを支援した。 	A

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
20 福祉サービス 利用援助事業・成 年後見事業の拡充	① 事業利用者の増加に 備えた実施体制の充実	【これまでに実施した取組】 ○事業利用者の増加に対応するため、生活支援員を新たに募集し、増員した。(平成27年度末16名→平成30年度22名) ○平成30年度より担当職員(専門員)のほか、事務職員を1名増やし、事務体制の強化を図った。	A
	② 関係機関・団体への事 業・制度説明会の実施	【これまでに実施した取組】 ○福祉サービス利用援助事業の関係機関・団体等への説明を実施した。	A
	③ 市民後見人育成事業 の事前調査と検討	【課題】 ○市民後見人育成事業の事前調査の実施に至っていない。 ○平成28年度に施行された成年後見利用促進法では、市民後見人育成だけでなく、専門的助言等の支援の確保や地域連携ネットワークのコーディネートを担う「中核機関」の設置が求められており、今後の方向性を市や関係機関・団体と協議をする必要がある。	D

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
21 共同募金活動の拡充と改善	①募金箱設置、職域募金、法人募金等の新規開拓	【これまでに実施した取組】 ○募金箱設置、職域募金、法人募金等の新規開拓を継続実施している。	A
	②助成先の事業支援、助成先の新規開拓	【これまでに実施した取組】 ○既存事業先の事業内容の拡充や転換、未助成先への働きかけや助成紹介などを継続して実施した。	A
	③運動の周知及び理解促進のための取組強化	【これまでに実施した取組】 ○どんしゃんまつりでのフリーマーケットへの参加(平成29年度まで)や市マスコットキャラクターもしえのん・あののんバッジを作成、イオン酒田店周年祭イベントでの募金活動の実施など新たな募金活動を展開した。 ○会報ふれあいやラジオ「社協ほのぼのタイム」を通じての共同募金運動の説明など運動の周知・理解促進を継続している。 ○出発式やイオン周年祭イベントでの募金活動への市マスコットキャラクターもしえのん・あののんの参加、出発式での保育園児の演奏(平成30年度)など目に見える、親しみやすい募金活動を新たに展開した。	A
	④将来の市共募移行を見据えた市民参加策検討	【これまでに実施した取組】 ○平成29年度より市町村募金委員会に組織変更した。 【課題】 ○助成先選定への市民参加策の先進事例の調査や検討、実施に至っていない。	C

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
22 市社会福祉協議会の基盤強化の継続	① 社会福祉事業基金の有効的活用	<p>【これまでに実施した取組】 ○学区・地区社協の地域福祉事業での活用策として、基金を新・草の根事業など地域の福祉事業に充当している。</p> <p>【課題】 ○社会福祉事業基金の有効的活用策について、社会福祉法人の「地域における公益的取組」や学区・地区社協の地域福祉事業での更なる活用が想定されるが、具体的な検討に至っていない。</p>	C
	② 簡素化、効率化を目標とした業務改善	<p>【これまでに実施した取組】 ○事務手続きなどの簡素化や効率化の検討と実施を継続している。</p>	A
	③ 財源確保策の実施	<p>【課題】 ○社協会費、共同募金以外の新たな財源確保策や既存財源の増収策について、他社協等の調査や具体的な検討に至っていない。</p>	D
	④ 組織の見直しと人事管理体制の改善	<p>【これまでに実施した取組】 ○社会福祉法改正に伴う法人制度の見直しなどに適切に対応した。</p>	A

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
23 市社会福祉協議会職員の専門性の向上	① 社協職員の各種研修への積極的な参加	【これまでに実施した取組】 ○専門職種研修への職員派遣、ケース検討会等の内部研修等積極的な研修参加を図っている。	A
	② 社協職員の資格取得希望者等支援策の拡充	【これまでに実施した取組】 ○職員の資格取得のための援助として、自己啓発研修助成の活用を図っている。 【課題】 ○資格取得支援の拡充の検討と実施に至っていない。	C
	③ 実習生の積極的な受け入れ及び指導者の育成	【これまでに実施した取組】 ○社会福祉士等の実習生の積極的な受け入れを行い、平成30年度より社会福祉士実習では、講義形式に偏らない、より実践的な実習カリキュラム等への改善を図っている。 ○社会福祉士の実習生受け入れの指導を行う研修修了者の増を図っている。(平成27年度末修了者3名→平成30年度末修了者6名)	A

評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手

具体的取組み	実施項目	実施状況等	評価
24 市社会福祉協議会の情報発信、理解促進の継続	①既存広報活動(会報・ホームページ等)の改善	【これまでに実施した取組】 ○平成28年度、ホームページをリニューアルし、情報にたどり着きやすい構成に改善した。 ○会報ふれあいは、写真やイラストを多用し、見やすい紙面への改善を図るとともに、平成29年度より表紙をカラー化、題字に高校生の書道等の作品を採用し、より多くの人に興味を持ってもらう広報に改善した。	A
	②ラジオ局、コミュニティ紙等との連携	【これまでに実施した取組】 ○平成30年7月より、酒田エフエム放送と協力しラジオ番組「社協ほのぼのタイム」の放送を開始した。	A
	③若い世代等に向けた新しい理解促進策の検討	【これまでに実施した取組】 ○平成28年度よりSNS(ツイッター、フェイスブック)の本格運用を開始し、幅広い世代への情報発信を図っている。	A